

淡路島古事記編纂1300年記念事業

日本最古の歴史書『古事記』の冒頭を飾る“国生み神話”の舞台、兵庫県淡路島。『古事記』が和銅5年(712年)に編纂されてから平成24年で1300年を迎えるにあたり、淡路島では「淡路島古事記編纂1300年記念事業」を実施しています。この事業の一環として、復興を祈念し、南三陸町で淡路人形浄瑠璃公演を行います。500年の伝統をもつ淡路人形浄瑠璃(国指定重要無形民俗文化財)を是非ご覧下さい。

淡路人形座

淡路人形浄瑠璃

えびす まい

◆ 戎舞

にん ぎょう かい せつ

◆ 人形解説

◆ 壺坂靈驗記 山の段

つぼ さか れい げん き やま だん

◆ 本朝廿四孝 奥庭狐火の段

ほん ちょう にじゅうし こう おく にわ きつね び だん

11:00~ 淡路島の味をご提供します。
[淡路島牛丼・玉ねぎスープ・ピシス焼]

13:00~ 淡路人形芝居 上演

淡路人形芝居公演終了後、

淡路島特産品を配布いたします。

協力/洲本市・南あわじ市・淡路市・(財)淡路島くにうみ協会

2011

12/11日

南三陸町 平成の森

《入場無料》

兵庫県

淡路人形芝居

美しい自然に恵まれ、四季の変化に富む日本には、神さまに豊作豊漁を祈り、感謝するためのお祭りがたくさんあります。神様といっしょにご馳走を食べ、お酒を飲み、歌ったり踊ったりして地域の人が生きる喜びをあらわします。

神様にお祈りをするための道具だった人形が、神や仏の教えを広めるための劇に使われ、だんだんに人々が楽しむためのものになりました。竹本義太夫という語りの名人や大作家近松門左衛門が現れ、語り、三味線、人形、演出、舞台など、それぞれにいろんな工夫が重ねられて、舞台芸術として世界で最も洗練された人形芝居のひとつとなりました。

昔、人形芝居が大人気だった頃、淡路島には40以上の座本（人形芝居の劇団）があり、全国各地に人形浄瑠璃を伝えました。今も淡路の人の生活に深く根ざしたものとして伝承されています。

「戒 舞」

浄瑠璃が生まれる前の人形芝居は、鼓や太鼓で演じられ神様に祈るものでした。えびす舞は、淡路人形の古い形式を残した神事で、淡路島の浜の祭りでは大漁や航海の安全を祈って必ず舞われていました。太鼓のリズムでえびすさまが釣竿をかついでやってきました。庄屋さん、お神酒を出します。さかずきを飲み干したえびすさまは、自分の生まれや福の神であることを話しながら舞い始め、海の幸、山の幸を前にお神酒を飲みます。酔ったえびすさまは、船に乗って沖に出て大きな鯛を釣り、メダタシ、メダタシと舞い納めるのでした。



「人形解説」

人形の構造・人形遣いの役割や工夫が学べます。

「壺坂靈驗記 山の段」



淡路島生まれの加古千賀女の作で、明治20年に初演された大和壺坂寺の靈驗を記した作品です。

大和壺坂に住む座頭沢市は、美しい女房のお里が賃仕事してくれるのを力に細々と暮らしています。結婚して丸3年、お里が明け方を空けるのに疑いを持っていましたが、沢市の目が開くよう壺坂寺に願掛けしていたと知り、壺坂寺にお参りすることになりました。お里を家に返し、一人

残った沢市は、お里の幸せを祈って谷に身を投げます。これを知ったお里も後を追いますが、観世音のご利益で二人の命が助かり、沢市の目も開きます。喜び勇んだ夫婦は、万歳を舞ってお礼参りをするのでした。

「本朝廿四孝 奥庭狐火の段」



越後の上杉謙信の娘八重垣姫と甲斐の武将、武田信玄の息子勝頼は、婚約をしていました。勝頼は、武田家の家宝のかぶとを取り返そうと庭つくりの蓑作に扮して上杉家に入り込みました。謙信は、刺客を出して殺そうとしますが、これを知った八重垣姫は、勝頼に危機を知らせようとかぶとの力を頼りに氷の張った諏訪湖を渡るのです。三味線、琴の連れ弾き、人形と主遣いの早替わりなど華やかな舞台をお楽しみ下さい。

人形遣い

主遣い

左手でかしら、右手で人形の右手を持って遣う

左遣い

右手で人形の左手を遣い、小道具の受け渡し等をおこなう



舞台下駄

主遣いは大きい人形を遣うため身長や人形の大きさに応じた舞台下駄をはく

※黒衣は「無」であることを表す

足遣い

人形の後ろで中腰になり人形の、両足を持って遣う

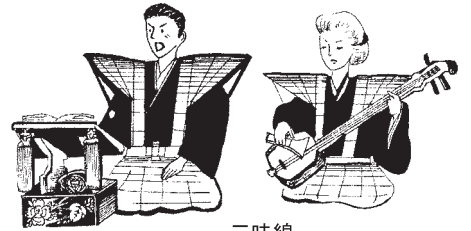
三人が心一つにして、人形を遣うことはとてもむずかしく、人間以上に力強さや美しさを表現できる一人前の人形遣いになるには「足8年、左手8年、かしらは一生の修行」と言われる程、長年の厳しい修行を積み重ねなければなりません。

太夫

老若男女、様々な身分、性格の人物の人間模様を一人で語り分ける

三味線弾き

芝居全体をリードし、物語の情景、状況に合わせて太夫を助け、効果を高める



床本

浄瑠璃の書かれた本

見台

床本を置く台

三味線

義太夫節で使われる太棹は三味線の中でも一番大きく重い。繊細な音や豪快で重厚な音まで幅広い表現ができる

撥

象牙でできた撥で重量があり、力を込めて弦を弾く

浄瑠璃：登場人物のせりふ、会話の部分(詞・色)、物語の展開、情景、状況表現する部分(地合)からなっている。人形芝居では浄瑠璃に合わせ、人形が、人間以上に美しく物語を描き演じる。

淡路人形座の紹介

1964年に発足した淡路人形座は、260年以上の歴史を誇る吉田傳次郎座の道具類を引き継ぎ、何世代もの人の創意工夫が重ねられ受け継がれた人形浄瑠璃を上演しています。最高齢者で1998年に重要無形文化財義太夫節三味線保持者に認定された鶴澤友路を始め、男性9名、女性9名の座員が淡路人形浄瑠璃館で毎日公演する一方、国内外への出張公演、学校への出張講座、小・中学校、高校、子供会活動の後継者団体への指導、全国の伝統人形芝居保存会への協力など、伝統人形芝居の普及、発展のための活動も積極的にを行っています。

淡路人形座

〒656-0503 兵庫県南あわじ市福良丙936-3
TEL 0799-52-0260 FAX 0799-52-3072

お問い合わせ 兵庫県淡路県民局公園島企画室 TEL. 0799-26-2014

公演当日を含め、開庁時間外の対応はできませんので、予めご了承ください。